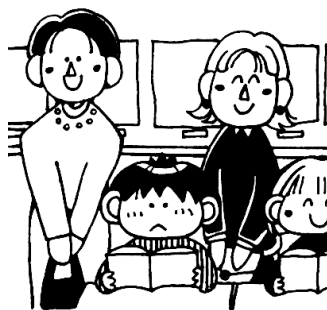


# 荒川ひろしのビジョン！

## 教育

CAPプログラム（子どもへの暴力防止プログラム）市内の保育園、幼稚園、小中学校への導入。

CAPプログラムは、子どもに対する暴力（いじめ、誘拐、性的虐待など）に、子どもたちがどう対処したらいいのかを学ぶもの。子どもたちが「安心」して「自信」を持って「自由」に生きることができるように「自分を大切にできる心」や「自分にはかけがえのない存在」であることを伝えます。子どもを「守るべき弱い存在」と見るのではなく、一人ひとりが本来持っている「暴力に対処する力」を引き出すことに重点を置いています。このCAPプログラムを実施することは、子どもや大人が基本的な人権力を身につける「人づくり」につながり、地域の発展と犯罪の防止につながると考えます。



PTA活動の見直し！（親が変われば子どもも変わる）

PTA役員の多くは年代わりであり、活動を積み上げにくいのが現状です。もちろん役員関係者の努力は並大抵のものではありませんが、PTA活動の発展には、教育委員会と学校、家庭の3者が本音で話し合い、さまざまな課題の解決に向けて実践することが重要と考えます。そのために・・・

「させられるPTA」から脱却し「やりたいPTA」をめざす親たちの支援

登下校時の安全対策など、全PTA挙げての活動への援助

PTA代表者と市、市教委が互いのビジョンを話し合い交流する場・・・が必要です。

生徒、学生のまちづくり活動への参画推進！

最近の子どもたちの感性はある面で優れており、その活動の場や行動範囲は年々広がっております。しかし現状においては学生の若い力と発想がこの福知山の町づくりに充分活かされていないのではないのでしょうか？企画力のある学生を行政事業（ポンチフェスタ・市民憲章・福祉まつり・市民まつり等）における実行委員や審議会の委員に加えることで、若者が住みたいまちづくりに近づくと考えます。

青少年問題を考えるプロジェクトの設立！

現在、青少年の犯罪は複雑多様化し、年々低年齢化しつつ件数は増加の一途です。

この現象にストップをかけるためにも、まずは大人が変わる必要があると考えます。

具体的には、小学校教育の中で「シンナー・覚醒剤等」の怖さや体への害を伝える教育が必要であり、親への意識改革を促す教育も必要であります。また、現状に促した防犯パトロールが実施できる体制作りの実現を目指します。

## 福祉

今後、合併の有無に関わらず福祉の現状は大変厳しいものと予想しています。これからの福祉事業は、年々複雑多様化する市民要望にいかに対応できるサービスを創り上げるかにかかっていると考えており、そのために市民要望の「受け皿」と「行政・社会福祉協議会・福祉施設・民政委員・NPO法人・地区福祉推進協議会・ボランティア等」の連携と役割分担を明確にすることが極めて重要と考えています。

